

「結核病床のあり方」について (前回部会における議論の要約)

1. 結核病床の現状

- 近年の結核入院患者数の減少により、結核病棟で空床が目立っている。
(現在の結核病床数 約1万。平均病床利用率は 30%台)
- 地域により病床利用率に 10%未満～60%と地域格差が認められる。

2. 結核入院医療の提供体制

- 一定の集約化(手厚い医療、医療水準の維持)が有効な方策と考えられるが、分散化(国民の結核医療へのアクセスの確保)の視点も重要。
- 単一病棟での運営は困難となっており、ユニット化～陰圧設備を有する個室化が今後の方向性ではないか。
- ハイリスク患者に対する医療(総合医療)提供体制の整備が重要。
- 新型インフルエンザ対策との連携について検討することが必要。

3. 結核入院医療のための法的整備

- 結核病床の施設基準の整備及び、感染症法上と医療法上の取り扱いの整理が必要。